

## 位置図



白山山系緑の回廊



六万山国有林

## 白山山系緑の回廊について

近畿中国森林管理局と中部森林管理局では、平成14年3月に野生動植物の生育・生息地の拡大と相互交流を促すことを目的に7つの保護林を連結する「白山山系緑の回廊」を設定しました。

この緑の回廊は富山、岐阜、石川、福井の4県にまたがり、延長約70km、面積60,459ha（保護林含む）です。白山山系は、「ハクサン」と名前の付く固有の植物も多く、全国的にも貴重な自然が残っています。

昔から自然の力ではぐくまれてきた森林はそのままの形で残したり、人が手入れしてきた森林についても野生動植物の生活環境に配慮した森林づくりを行い、人々との共生をめざしています。



経ヶ岳国有林

## モニタリング調査

近畿中国森林管理局では、緑の回廊内の環境の状況を把握するために、「国有林野における緑の回廊のモニタリング調査マニュアル」（平成15年1月）に準拠し、平成15年度からモニタリング調査を実施しています。

緑の回廊内に継続的に調査を行う「調査プロット」を設定し、各種の環境調査を行っています。平成26年度は、林床の植生調査や、ブナの種子生産量調査、動物の生息調査などを行いました。

## 植生調査



経ヶ岳国有林での調査状況

ブナの実生が見られる下層植生

各調査プロットにおいて、森林の下層植生の状況を把握するために、草本層の植生調査（コドラート調査）を実施しました。

調査結果を経年比較した結果、植生環境に下層植生の衰退など急激な変化は確認されず、ブナの実生が生育している林床も確認されました。

## 種子生産量調査

ブナクラス（ブナ林）に設置した調査プロット3箇所において、ブナの種子生産量を把握するために、モニタリング調査対象の樹木にナイロンネット製の種子トラップを設置し、種子生産量を調査しました（7～10月）。調査の結果、平成26年度のブナの堅果類は凶作と判断されました。



ブナ種子の状況



種子トラップの設置状況

## 野生動物調査

各調査プロットに赤外線センサーによる自動撮影カメラを設置し、緑の回廊に生息する動物の調査を行いました（6～10月）。平成26年度の調査では10科12種の哺乳類を撮影し、ツキノワグマやニホンカモシカが広範囲で確認されました。痕跡調査では、モモンガやムササビなどの糞や足跡など、11科16種の哺乳類の生活痕跡を確認しました。鳥類調査では22科42種を確認しました。



センサーカメラ



ニホンリスの食痕（痕跡）



ニホンザル



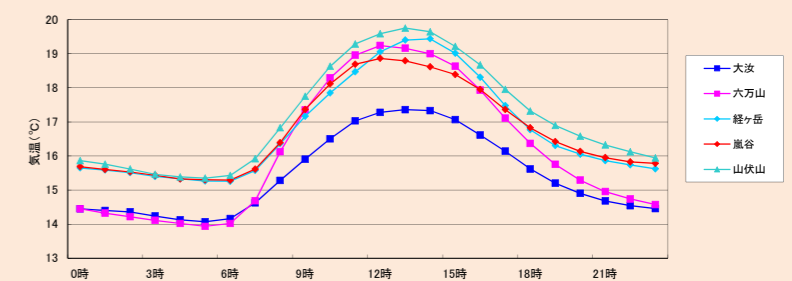
ツキノワグマ



ニホンカモシカ

## 生息環境調査

各プロットに気温・湿度を自動的に計測するデータロガーを設置し、気温・湿度の連続測定を行いました（7～10月）。測定結果を整理し、調査プロットにおける気温・湿度の特性を把握しました（右図：調査プロットにおける気温の日周変化）。



## 関係機関との連携

関係行政機関、試験研究機関等とモニタリング調査結果等の情報を共有し、関係者が連携しながら各種取組を進めていくこととしています。

<白山山系緑の回廊についてのお問い合わせは> 近畿中国森林管理局 (代表電話) 050-3160-6700